

群馬県立前橋西高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	・目標や計画を立て、前向きに挑戦し、自分の経験を振り返ることで、次なる目標や計画につなげることができている生徒が70%以上である。	・ランドデザインの目標とプロセスを共有し、二者面談や授業、学校行事等の場面で、生徒への指導・支援を行う。	A	A	A	80%の生徒が「目標や計画を立て、前向きに挑戦している」と回答した。二者面談や授業、学校行事等の場面で引き続き、生徒への指導・支援を行いたい。	・国際科がある前橋西高校は海外との交流や海外研修等の交際理解教育が売りであるので、継続させて欲しい。 ・表現力、発信力は何度も経験することで身につけてくるので、生徒たちが人前で発表する機会を増やしてほしい。 ・自分の役割を果たす機会を積極的に設け、居場所づくりや自己有用感や帰属意識を高める指導を大切にしたい。	
		・少人数制の授業形態(数学・英語・体育)に、生徒の80%以上が満足している。	・少人数による授業により、双方向できめ細かな学習指導を実施し、学習内容の十分な定着を図る。	A	A	A	93%の生徒が「少人数制の授業形態に満足している」と回答した。少人数授業の特質を生かし、今後もきめ細やかな学習指導を行う。		
		・学校行事に、生徒の80%以上が満足している	・「球技大会」、「芸術教室」、「マラソン大会」等の行事や部活動、委員会活動の充実を図り、生徒が主体的に活躍する場面をつくる。	A	A	A	92%の生徒が「学校行事に満足している」と回答した。生徒が主体的に学校行事に関わるように綿密な計画、協議を行う。		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	・授業を受けることで、学習内容が理解でき、学力が身についたと感じている生徒が70%以上である。	・丁寧な授業展開を図るとともに、生徒の実態に適した課題設定を行う。 ・指導と評価の一体化に向けて、授業見学や校内研修を充実させ、授業アンケート結果を改善に活かす。	A	A	A	92%の生徒が「授業を通して学力が身についた」と回答した。今後も学習内容の精選、授業展開の工夫、ICTの活用について日頃より実践を積み重ねる。	・授業の中で思考力を育てるために、一斉授業だけでなく、双方向での対話的な活動を充実させて欲しい。 ・課外授業への定着率を向上させるために何か対策を練って欲しい。 ・県教育委員会が年度末に策定することとなっている「第4期教育振興基本計画」の内容・方針に沿った教育の実現を目指す。 ・予測できない未来に対応する力の育成のために、探究学習を重視したい。 ・一人ひとりがエージェンシーを発揮し、自らの学びをつくり行動し続ける「自律した学習者」を育成する。	
		・進路実現に向けた学習指導に、生徒の70%以上が満足している。	・土曜や早朝、そして長期休業中の課外を充実させ、生徒の学ぶ意欲を喚起するとともに、一層の学力向上を図る。	B	B	B	土曜課外・早朝課外等への参加者を増やすとともに、内容を充実させ進学に向けた学習指導を継続的に行っていく。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	・目標の実現に向けて計画的に学習を継続し、日常的に家庭学習を行っている生徒が80%以上である。 ・英検2級合格者が年間10名以上である。	・キャリア教育の充実にも努め、進路の実現を念頭に学習意識を高めて、生徒が自ら学習に取り組むように、進路講演会やLHRを活用していく。 ・英検などの資格、検定試験の受験を促すとともに、英検各級合格に向けて指導する。	B	B	B	57%の生徒が「目標の実現に向けて継続的に家庭学習を行っている」と回答した。キャリアパスポートを確実に取り組ませて、生徒の目標の明確化を促す。 年間3回の実用技能英語検定試験を活用し、全学年を全員受験とした。2級の合格率は前年度より高くなっている。合格へ向けて計画的に指導にあたっていく。		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・生徒指導に関する校則を、生徒及び保護者の80%以上が理解し、納得した学校生活を送っている。	・集会時や配布物等を通して、生徒指導方針の理解と内容の周知を図るとともに、SNS利用ルールの徹底などネット関係の規範意識の育成を生徒会と連携して推進する。	A	A	A	集会や配布物を通して、生徒指導方針の周知を図り、規範意識の育成を心がけた。SNSの利用をめぐるトラブルやネット犯罪、ネット被害などを防ぐため、外部機関や保護者と連携しながら、効果的な指導を行う。	・いじめ防止には日常的な指導が欠かせない。特に自己肯定感や自己有用感を組織的に図る取組が重要である。 ・スクールカウンセラーや保健室が、誰でも相談できる体制を維持してほしい。 ・学校いじめ防止基本方針について丁寧な説明をしている。 ・いじめ問題の早期対応をしており、スクールカウンセラーとの連携とチーム態勢強化を図っている。	
		・部活動に、生徒の60%以上が積極的に取り組み、継続的に活動をしている。	・部活動の活性化に向けて、リーダーとなる生徒を育てるとともに、活動内容や指導方法などの改善に取り組む。	A	A	A	新入生に対しての部活動紹介を充実させ、部活動加入率の向上に向けた取り組みを行った。今後さらに部活動の活性化を図るために、環境を整備するとともに、目標実現に向けて取り組めるように支援する。		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると生徒の80%以上が認識している。	・「学校いじめ防止基本方針」を丁寧に説明する。 ・いじめ問題は早期対応が求められるので、観察と情報収集を素早く行う。 ・いじめの解消に向けては丁寧かつ慎重に行い、スクールカウンセラー等を活用した教育相談と、職員研修の充実を図る。	A	A	A	いじめ対策は、未然防止及び早期対応が図れるよう、適宜観察と情報収集を実践できた。学校生活アンケート等を実施し、教育相談係・スクールカウンセラーと連携して、情報を共有し、職員の間で共通理解のもとで未然防止に取り組んだ。発生したいじめについては、組織的に対応し、解消に努めた。また、職員研修を行い、法律に沿った組織的対応の周知をした。		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・欠席率、平均遅刻者数について、前年度以下とする。	・欠席、遅刻、早退の防止に向けて、職員間の情報共有を徹底するとともに、保護者との連携の強化を図る。	A	A	A	保護者の理解と協力の下、時間を守ることの大切さを指導するとともに、朝のあいさつ運動を継続的に実施できた。また、毎月マナーアップ運動を実施し、遅刻防止につなげた。今後も時間を守るということの大切さを指導するため、保護者との連携・協力をさらに進める。	・「保健日より」等を通して健康の大切さを伝えるとともに、心の悩みを抱える生徒には、スクールカウンセラー等との連携により指導の強化を図ることができた。		
	・健康に留意した規則正しい生活を、80%以上の生徒が送っている。	・疾病や事故の防止についての指導を充実させるとともに、心の悩みを抱える生徒も見られるので、スクールカウンセラーや外部機関との連携により指導の強化を図る。	B	A	A				
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	・年間指導計画に沿った指導により、進路意識を確立できた生徒が80%以上である。	・進路講演会やLHRを通して、キャリア意識を養うとともに、生徒の自己理解を段階的に深める指導に取り組む。	A	A	A	進路講演会の内容と時期について、年間を通じた計画を心がけた。今後も3年間を見通した系統的な進路指導を実施したい。また、進路行事を効果的にを行い、生徒の自己理解と進路意識の向上を図った。	・生徒たちがキャリアを深く考えるために、1学年全員にインターンシップを実施できたのは非常に有効であったろう。事前、事後学習が非常に大切である。 ・近年、進学方法が多様化しており、生徒一人ひとりの個性を見極めて適切な方法を選択して欲しい。 ・若い社会人OB・OGに來校してもらい、座談会等を行ってはどうか。年齢が近い先輩の話聞くのは進路選択に役立つだろう。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・幅広い視点から進路選択し、前向きに取り組んでいる生徒が80%以上である。	・高大連携やインターンシップを通じ、生徒たちのキャリア形成の充実を図る。 ・模擬試験や進路適性検査の内容や成果を適切に分析し、二者面談等を活用して、個に適した指導を行う。	A	A	A		1年生全員にインターンシップを経験させることができた。また、2、3年生の希望者にも公民館、保育園、看護体験を実施できた。来年度も継続して実施していく。 模試結果の分析を教員間で共有し、二者面談や三者面談において有効に活用できた。来年度は、生徒に還元するタイミングを工夫する。
	9 適切な進路情報を提供していますか。	・進路関係配布物(webページを含む)に、目を通して保護者が80%以上いる。	・学校からの情報発信手段としてホームページを充実する。 ・GSNメールの活用し、進路情報の提供頻度を上げて、保護者・生徒への周知を徹底する。	A	B	B	生徒に進路情報を提供した際には、必ずGSNメールで保護者にも連絡し周知した。来年度も継続して行う。		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・ホームページの充実と更新に努め、年間50万ページビューを目標とする。	・ホームページの更新を定期的に行うとともに、各種教育活動実施後、迅速に活動内容等をホームページ上に掲載する。	A	A	A	12月中旬では150万ビューであった。HP管理について、校内組織のあり方を見直し、各種教育活動実施後、迅速に活動内容等を掲載する。	・WEB活用による学校説明会は非常によい取組である。 ・インターンシップは社会を知るよい機会である。学校に地域や企業の人たちが関わり、生徒たちのコミュニケーション能力を育てるのに役立つ。 ・清里公民館との地域連携が積極的に行われており、非常に好感が持てる。	
		・その他各種学校行事についてのPTA役員への参加率は80%以上である。	・PTA役員への参加率が高まるように、各種行事の日程、時間帯等を工夫する。 ・保護者が参加できる行事等を再構築し、積極的な参加を促していく。	A	A	A	マナーアップ運動に関しては、毎回10%程度の欠席がみられた。マラソン大会に関しては、本部役員は90%以上、学級理事は80%程度の出席予定であったが、学級閉鎖により中止となった。		
		・地域社会と連携していると感じている教職員が80%以上である。	・地元である清里地区との連携を継続する。 ・インターンシップを計画し、地域企業との交流を図る。	A	A	A	夏季休業中を中心に清里公民館と連携した取組が、コロナ禍以前よりも充実できた。また、1学年生徒全員対象に地域企業へのインターンシップを実施し、報告会にて、企業担当者を学校に招くことができた。		
Ⅵ 安全管理に努めていますか。	11 施設設備の安全管理は、十分にされていますか。	・安全点検が日常的になされており、校内に危険な箇所、危険な物品等について90%以上が改善されている。	・安全点検を毎月1回実施し、生徒、保護者アンケートの中で危険を指摘される問題点等については速やかに解決する。	A	A	A	危険と指摘された場所については速やかに点検し、改善が必要な場合には十分に対処することができた。	・ヘルメット締約率向上のためには何か必要かを生徒たち自身で考えさせてはどうか。 ・事故防止強化のための視点として、加害者にならないように指導体制を強化してほしい。	
		12 生徒の安全指導・安全確保が十分にされていますか。	・交通ルールやマナーを遵守し、交通事故防止について、生徒の80%以上が主体的に取り組んでいる。 ・健康安全に関する講話を80%以上の生徒が理解している。	・日常的な安全教育と登校時指導等により、事故防止の強化を徹底する。 ・ヘルメット着用定着率向上を目指し、生徒会と協力して啓発活動を推進する。 ・交通安全教室、非行防止教室、防火避難訓練等の内容を吟味し一層充実させる。	B	A	A		交通安全に関する意識や、ヘルメット着用率を上げるために、生徒会や委員会が中心となって啓発活動を行った。交通安全教室・生徒指導主事講話など、折に触れ、自転車事故防止の指導強化を図る。
		13 ICTを活用した指導を行っていますか。	・ICTを日常的に授業で活用している教員が80%以上である。	・ICTを授業で効果的に活用するための職員研修を行い、活用事例を共有する。 ・各種会議での情報共有にICTを活用する。	B	A	A		現状をふまえた上で、生徒の実態に合った講話を実施することができた。
Ⅶ 教育デジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	・ICTの活用により、業務が効率的に行えるようになったと感じている教職員が80%以上である。	・各種会議でGoogle Classroomを活用したペーパーレス会議を進める。 ・各種アンケートをGoogle formsを活用して、スムーズな集計・分析を行う。	A	10	A	全校職員が認識を深められるような研修は実施できなかったが、昨年度に比べて、授業でICTを活用している教員が増加した。一方で、生徒に身につけさせたい学力観を共通認識した上で、生徒の学力向上につながるようなICT活用方法を検討する必要がある。ICTの活用による業務効率化については、その実感を職員が持てるかどうかが大切である。	・電子図書館の取組は時代に適した取組である。書籍の内容をさらに宣戦して、レベルアップを図って欲しい。 ・授業において効果的な活用がなされている。そのための職員研修ができています。	
		14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	・ICTの活用により、業務が効率的に行えるようになったと感じている教職員が80%以上である。	・各種会議でGoogle Classroomを活用したペーパーレス会議を進める。 ・各種アンケートをGoogle formsを活用して、スムーズな集計・分析を行う。	A	10	A		校務委員会及び職員会議にて、Chromebookを活用したペーパーレス化を図った。資料提示を3日前には行い、事前に資料に目を通すことを案内した。また、各種アンケートでもGoogle formsを活用できた。